

ふるさとひょうご創生塾神戸交流会 総会

ふるさとひょうご創生塾と地域活動 (プレゼン版)

令和4年(2022年)6月12日

ふるさとひょうご創生塾神戸交流会 副会長

自治会を支援する会・西須磨 会長

藤波 進

1. ふたつの兵庫県事業における地域活動の位置づけ

- 齋藤元彦新知事を迎え、兵庫県は「こころ豊かな人づくり500人委員育成事業」(「500人委員会」)、「ふるさとひょうご創生塾事業」(「創生塾」)を停止し、令和4年度(2022年度)の新規入塾生募集は行っていません。500人委員会は平成元年(1989年)、創生塾は平成8年(1996年)に、いずれも当時の貝原俊民県知事の下で開設されたもので、30年前後の活動を止めたということになります
- 両事業は一定の役割を終えたから終了する、ということになりますが、その卒塾生は残っており、その集団の一つである「ふるさとひょうご創生塾神戸交流会」は、活動を継続することに決めました。その活動の方向性については、「私たちは何をしたいか」と「私たちは何を求められているか」という二つの考え方があります。ここでは、後者の立場から考えていきます
- 結論から言うと、卒塾生は、500人委員会では「青少年育成活動」と「地域づくり活動」、創生塾では「実際の地域活動」が求められてきました。ここでは、「地域づくり活動」と「実際の地域活動」を合わせて「地域活動」とし、その「地域活動」について考えていきます

2. 身近で展開されている地域活動 西灘元気プロジェクト

「ラジオ体操は毎朝、雨が降らない限り6時30分から西灘公園でやっています。」

- 単純明快です。しかし、これほど素晴らしい地域活動はありません。
- ① 地域の人が、主催し、運営している
- ② 地域の人が、参加している
- ③ 誰でも気楽に参加することができる
- ④ 参加を希望する人は、誰でも受け入れる
- ⑤ 参加する人にメリットがある(体を動かして健康によい、朝起きの習慣ができ、良い一日が始まる、皆でやるから続けられる、楽しい、無理なく人と接することができる、など)
- ⑥ 地域にメリットがある(顔なじみが増え、何気ない挨拶が増える。地域意識が芽生える。参加者は心がオープンになり、そのような人が地域に増える)
- ⑦ 公園なので会場費は要らない。音楽は、ラジオの音声を生で流している
- ⑧ 継続して開催できている。そのイベントに魅力があるからである

3. 地域活動の定義

3.1. 一般的な定義 … 略

3.2. ここでの定義

- ここでの地域活動を定義します。いずれも、具体的な特定の地域(〇〇地域)を対象にします。「全国、どこにでも行きます」は、ここでは「地域活動」としての検討対象に入れません(「地域にとって意味がない」ということではありません)
- A型 継続的な地域活動
 - A1型 その人が現に住んでいる地域を対象にして、その地域の人々(自分も含めて)のために活動している
 - A2型 自分の住んでいる地域ではないが、ある特定の地域を対象にし、その住民の活動に参加・協力している
 - A3型 地域の人々からの要請により、あるいは、地域の人を巻き込んで、団体や個人が、コーディネーターのように、地域の人々のために活動している
- B型 散発的な地域活動
 - 特定の地域の人を対象とした、一回限りのイベント …ここでは検討対象外

4. その他の身近な地域活動の事例

4.1. すまっこ寺子屋(須磨っこTerra小屋)

- すまっこ寺子屋(須磨っこTerra小屋)は、「学び合い 他者のために」をモットーにより良い須磨区を目指し、居場所のネットワークづくりをしているボランティア団体」です
- 板宿にあるお寺(信行寺)の副住職さん(今は住職さん)の奥さん(米田悦子さん)が始めて、様々なイベントを催してきました。どんどん、輪が広がってきています
- 最近では、「みつけ世界市」に、シェグニの子どもたちの『窓Tシャツ』を出展しました(ミャンマー支援)。他に、森田農園とか、スマホ教室などをやっているようです
- 会則で「地域」を重視していますが、狭い地域ではなく、「参加者は概ね須磨区の居住者です」というように、須磨区という少し広いレベルでの「地域」を対象にしているようです

4.2. 明舞まちづくり委員会

4.3. 身近な活動についてのまとめ

- 明舞団地は、「明舞まちづくり委員会」を再生計画においてリーディングプロジェクトに位置づけ、「明舞センターのハード面での再生が進み、地域の再生への機運・期待が高まりつつあります」としています
明舞まちづくり委員会は、明舞団地の再生を応援するものなら誰でも登録可能な「サポートメンバー」を募集しました。この委員会に参加することは、先に述べたA3型地域活動に関わることとなります
- ここで紹介した活動は、卒塾生が関わっているけれど、創生塾「発」ではありません。活動している人が、創生塾神戸交流会の会員だったということにすぎません。創生塾神戸交流会が発案したわけではなく、活動を手助けしたわけでもありません
- なお、自治会活動なども地域活動に位置づけられます。自治会活動については、後に紹介します

5. 地域活動を担う人の育成の現状

5.1. CS神戸の地域貢献ゼミナール

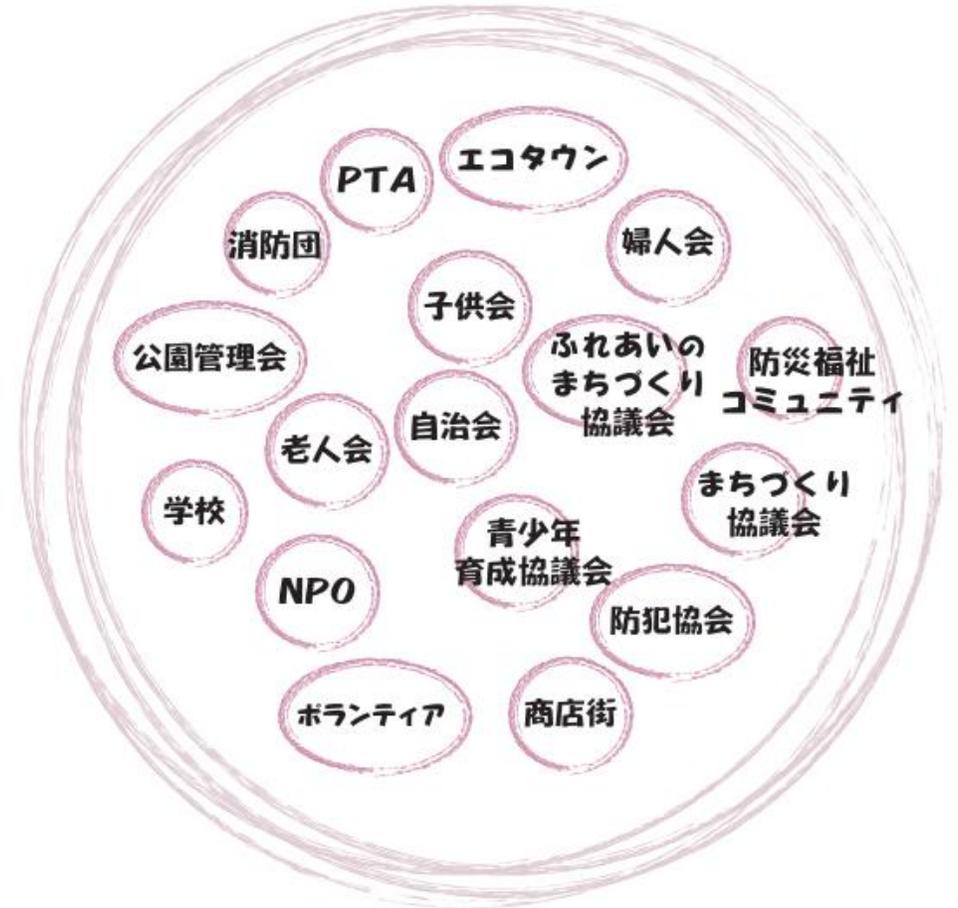
5.2. 創生塾のしてきたこと

- 認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸（CS神戸）が、地域貢献ゼミナールを開催します。理論編、実習編、フォローアップからなっています
- 理論編では、中山幾郎教授の講演の後、ボンジュール紙芝居（文化）、リフレッシュ船寺（スポーツ）、こどもワクワク食堂（子ども）、つどい場コスモス（高齢者）、認定NPO法人フードバンク関西（食）、NPO法人実用日本語教育推進協会（多文化共生）が紹介されます
- 創生塾とCS神戸とパターンは似ています。違うのは、創生塾は2年間しっかりかけ、2年目には実践が伴うこと、創生塾はリーダー育成を目指す一方、CS神戸のゼミナールは、「地域活動団体への参加や、仲間との新たなグループの立ち上げのきっかけづくりに役立ちます。これまでの経験を地域に役立てたい方、一緒に活動する仲間がほしい方の参加をお待ちしています」と間口が広がっています

6. 伝統的な地縁組織による地域活動

6.1. 「地域活動ちえぶくろ」における地域活動

- これまで見てきた地域活動とは異なる地域活動があります。
- 「仲間との新たなグループを立ち上げ」るまでもなく、既に多くの地縁組織による活動があります。
- そして、その活動は、危機に瀕しています。こちらも大切です。
- 『A1型 その人が現に住んでいる地域を対象にして、その地域の人々のために活動している』という「地域活動」に該当します。



6.2. 地域活動デビューの手順

6.3. 鬼頭講師の教え(2022/03/13)

- 地域活動を何も知らない人が、いきなり「仲間との新たなグループの立ち上げ」で、というのは、ハードルが高すぎます。地域活動には、地域ごとにしきたりみたいなものがあるし、地縁組織固有の人間関係は職場のとは全然違います。対象地域の人、特にキーマンとの信頼関係、周辺の地縁組織との連携もないまま、新たに地域活動をしようとしても、そう簡単にはいきません。そもそも、その地域のニーズ、問題点もわからないまま、思い込みでチームを立ち上げて、なかなかうまくいきません。地域活動に本気で携わるつもりなら、これらの地縁組織の地域活動のどれかに先ず入って活動することを勧めます。
- 鬼頭参与から「ふるさとひょうご創生塾卒塾生の地域づくり活動での活躍に向けて」(2022年3月13日 創生塾神戸交流会)で、「地域づくり活動への飛躍に向けて」として、「① 自己PR」「② とにかく勇気をもって門をたたいてみる」「③ 地縁型組織の改革を試みる」「④ 卒塾生でネットワークをつくる」が大切であることを教えていただきました。

7. 私の体験から(1) 自治会活動をめぐって

7.1. 関守町2丁目自治会 会長として

2年間、関守町2丁目の自治会長を務めました。基本的な認識としては、

- 少子高齢化が進み地域力がますます必要になったのに、地域力は弱体化し続けている
- 地域力が弱体化して自治会が弱体化し、自治会が弱体化して地域力が弱体化するという悪循環に陥っている。これを好循環に変えなければならない
- 自治会役員を経験すると、地域に対する認識が一変する。毎回自治会役員が入れ替わると、自治会経験者が継続的に生み出される。この人たちは、地域にとって宝だ
- 以前は役員供給源だった退職後男性の多くは、今では働き続けて、役員候補として期待できなくなった。高齢でも、介護中でも、働いていても、子育て中でも、経験が少なくても、役員を引き受けられるよう、自治会を改革しなければならない。そのために、自治会が担っている役割を削ぎ落とし、そのうえでその期の役員がやりたいことを付加する

7. 私の体験から(1) 自治会活動をめぐって

7.2. 自治会を支援する会・西須磨

自治会長を退いたのち、「自治会を支援する会・西須磨」を立ち上げました。須磨区から地域提案型活動助成をいただき、活動しています。

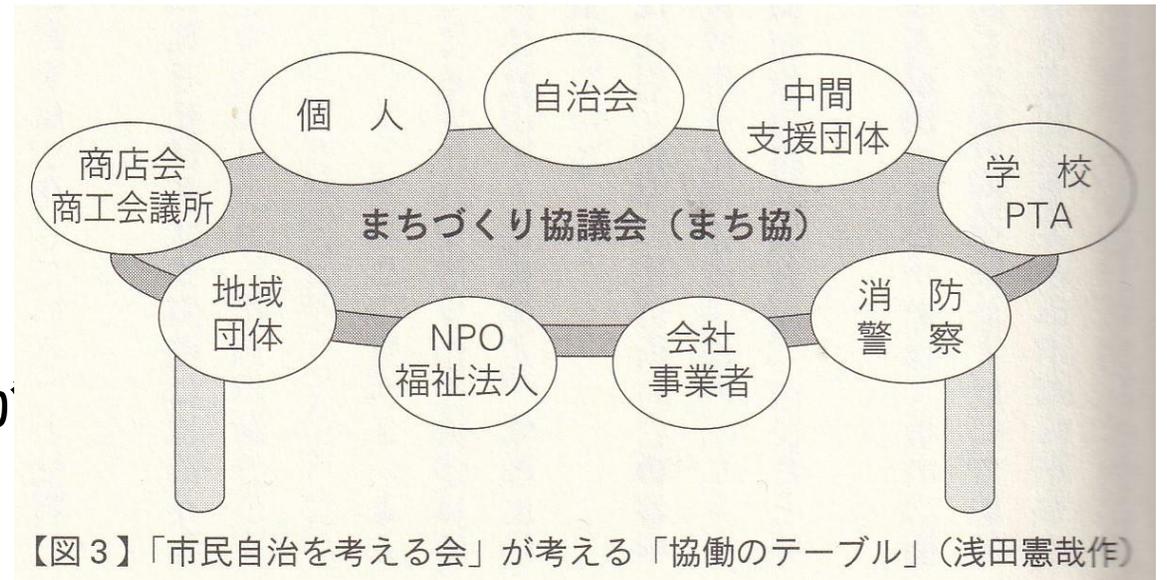
基本的な認識としては、

- そこに住んでいる人が暮らしやすいまちになることが何よりも大切だ。特に、弱い人や困っている人が暮らしやすくなることが肝要で、彼らにとって暮らしやすいまちになったら、そのまちはすべての人にとって暮らしやすいまちになるに違いない
- 暮らしやすいまちとして、三つの指標を考える。①認知症になっても自由に歩き回れるまち、②大規模震災が起こったとき、自発的に助け合えるまち、③ヤングケアラー(人知れず困っている人)がいたら、それを発見し公的支援に結びつけるまち。三つ書いたが、一つしかない。周囲を見渡し、困った人がいたら、手を差し伸べる。ただ、そのことだけ。三つのうち一つでもできたら、他の二つもできるようになる

8. 私の体験から(2) 最近、出会った人々

8.1. 亀川甲さん

- 亀川さんは創生塾卒(15期)で、神戸交流会で講演もしていただきました。著書に「宝塚市、尼崎市、そして市民 ～ 74歳の壮大な夢に～」があります
- 活動の背景にある柱の一つは、「市民サークル”市民自治を考える会”の活動をとおして、地方分権下の市民によるまちづくりへの先鞭をつけた宝塚市の”宝塚モデル”のケーススタディ」です
- 宝塚モデルの理念としては、『まち協』は小学校区内の個人や、『単位自治会』を含めたあらゆる組織の人々が集まって地域課題を協議するところで、『協働のテーブル』を主催するところが『まちづくり協議会』である、ということです



8. 私の体験から(2) 最近、出会った人々

8.2. 星英光さん

- 星さんは、一昨年8月までは、兵庫県尼崎市役所に36年間勤務し、そのうち21年間は公民館(5年)・図書館(16年)の「社会教育分野」で過ごし、特に公民館在籍時の「人と人との縁を繋ぎ、学びにより、地域課題解決を図る」取組にすごくやりがいを感じていました
- 早期退職後、①生涯学習コーディネーターとしての講師・ファシリテーター活動をし、②4月から毎週日曜日(10:15～14:45)JR尼崎駅前のあまがさきキューズモール(ショッピングモール)で「地域のお悩みコンシェルジュ」に従事。③ちなみに2022年2月には行政書士の登録をしました
- 星さんの目指す理念は、「山積する地域での様々な課題を、地域住民の一人ひとりが正しく知り、ご縁を築きながら、共感を得て、学びつつ、自身のできる範囲で、その解決に寄与していくことにより地域共生社会を創り上げ、お互いがウィンウィンになれる」しかけ創り
- 地域活動の支援に尽力しています

8. 私の体験から(2) 最近、出会った人々

8.3. オンバダ香織さん

- オンバダさんは、青年海外協力隊の隊員(看護師)としてセネガル(アフリカ大陸の西)で2年間活動し、帰国後、一般社団法人ボック ジャンバール(Bokk Jambaar)のメンバーとして活動中です
- ボック ジャンバールの事業の一つに、「地域づくり事業(日本)」があります。「コミュニティ機能の希薄化・孤独化が深刻な社会課題となっている日本においてアフリカのような”つながり”を感じられる社会をモデルとし、地域の人々や他団体と協働して人々が交流できる場をつくり、一人ひとりの身体的・精神的・社会的な健康の促進に努めます」
- 特定な地域を対象としていませんが、藤波が自治会活動経験を通じて定めた目標と同じことを語っています。「日本に帰ってきたら、日本人はうつむき、暗い顔をして歩いている。経済的にも、環境的にも厳しいセネガルの人達の方が幸せそうなのは、何故？ 日本人は、どうすれば良いの？」という問が出発点のようです
- 具体的に何ができるかはこれからの課題ですが、地域活動を考え推進する際に、重要な示唆を与えてくれます

8. 私の体験から(2) 最近、出会った人々

8.4. 松井由子さん

- 松井さんは、姫路聖マリア病院でホスピスボランティアを続ける傍ら、ホスピスボランティア養成講座を受講し、その修了者を構成員とする神戸つむぎの会の代表を務めています
- 今後、在宅で死を迎える人が増えることが予想される中、在宅でもホスピスボランティアを受けられるよう、検討・準備を重ねています
- 藤波はその趣旨に賛同し、病院、訪問看護センター、あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)、区ボランティアセンター(須磨区社会福祉協議会)、地域の福祉NPO法人と連携することにより、実現できるよう働きかけたいと思っています
- ボランティアがご自宅の中に入ることには難しさがありますが、これが実現できると、須磨区において、自宅で少しでも安らかに死を迎えられるようになると期待しています。これも、地域活動の一環と考えています

9. ふるさとひょうご創生塾神戸交流会のこれから

- ふるさとひょうご創生塾神戸交流会は何者か
 - (a1) 卒塾生が交流する場である
 - (a2) 卒塾生が学んだことを生かす場である

- ふるさとひょうご創生塾神戸交流会の活動の方向性
 - (b1) 私たちは何をしたいか
 - (b2) 私たちは何を求められているか

- (a1)(b1)がよいと思う会員は、今の方針でよいと思います。一方、それでは飽き足りず、(a2)(b2)を求めたいという会員もいるのではないのでしょうか
- ふるさとひょうご創生塾はなくなったけれど、我々が生きている世界は、以前よりまして地域活動が求められているのではないのでしょうか